

科目名 (英)	就職講座 I Career Development	年次	1	実務経験	担当	岩本理絵 我妻優子 福田美幸
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1		曜日・時間	水・1限、金1、2限
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	美容業界の仕事、職種内容の理解を深め、職業選択を決める。また社会人に必要な身構え、気構え、心構えを身につける。					
到達目標	プロの職業人を目指すにあたり、美容業界に必要な基礎知識・業界情報を理解し、職業選択を決定する。 笑顔であいさつができるようになっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style(3回目の授業で使用)		事前事後 学習と その内容	スケジュールを毎回確認していくので、必ず手帳に予定を書くことを癖づけてください。スケジュール管理も社会人基礎力に欠かせないものになります。		
教材	スケジュール帳・メモ帳・筆記用具					
特記事項	必要事項はメモをとること					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	クラスを知る	日常行動スコアシートで自分の特性を知る。BBQチーム決め。ITリテラシーにてSNSを学ぶ。入学式後のワーク。
2	クラス目標をクラス会議で決める。	1年後の自分、クラスを創造し目標を決め、またクラスルールを自分たちで決める【クラス会議】
3	プロ職業人を目指す	Hand-book of Life Styleを使用し、学校生活・日常生活・社会生活について学ぶ。
4	職業研究/クラス会議	美容業の職種(スタイリスト、ヘアメイク、ブライダル)を理解する。(6月中に専攻授業決定)
5	職業研究	就職活動に向けて外部の方より就職活動について学ぶ。
6	自己分析	自分史を作成し、自分の強みを知る。
7	中間試験	①自己PRを作成。750文字～800文字でまとめる。 ②スポフェス種目決め(予定)
8	グループワーク/クラス会議	グループワークを通して、自分の意見を伝えること・他者の意見を吸収することを学ぶ。
9	グループワーク	グループワークを通して、自分の意見を伝えること・他者の意見を吸収することを学ぶ。
10	職業研究	就職活動に向けて外部の方より就職活動について学ぶ。
11	夏休みにあたっての重要事項	長期休暇を使って、準備しておきたい項目を理解する。
12	自己肯定感を高める。	クラスのみんなへ言葉の花束を使って、自己肯定感を高めるワーク。【地元自慢持ってくる】
13	自己分析	グループワークを通じて自己分析をする。
14	定期試験	自己PR750文字～800文字。
15	定期試験振り返り	わからない分野の洗い出しをし、必要な知識の整理をする。整理をすることで職業選択の決定につなげる。

科目名 (英)	保健 I Health	年次	1	実務経験	担当	駒木伸一郎
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1		曜日・時間	月・1、3、4限
講師紹介	医学博士の資格を持ち、医科大学・医療専門学校・病院などで研究・教育・臨床業務を行ってきた講師が保健科目をわかりやすく講義する。					
目的 科目概要	美容師は頭や顔を中心とする人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業であり、特に頭頸部の構造や機能について深い知識を持つことが必要である。そのような知識の基礎となる保健学を学ぶ。					
到達目標	人体の構造及び機能について理解する。美容師国家試験に合格できるような保健の知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験					
教科書	日本理美容教育センター発行「保健」		事 前 事 後 学 習 と そ の 内 容	事前学習として教科書に目を通しておく。事後学習として配布した練習問題を繰り返し解き、知識の記憶に努める。		
教材	教科書及び配布プリント、解剖模型など					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間期末試験時は学生証持参。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学	人体各部の名称を知る。
2	第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学	頭部、顔部、頸部の体表解剖学を学ぶ。
3	第2章 骨角器系	骨の種類と構造、骨の連結、骨角器系とその働きを学ぶ。
4	第3章 筋系	筋の種類とその特徴、主な骨格筋とその働き、表情筋と表情運動、理容・美容の作業と筋疲労について学ぶ。
5	第4章 神経系	神経系の成り立ち、中枢神経系とその働きを学ぶ。
6	第4章 神経系	中枢神経系とその働き、末梢神経系とその働きを学ぶ。
7	中間試験・振り返り	前回までに学んだ範囲について中間試験を行う。試験後、振り返りを実施する。
8	第4章 神経系	神経系の成り立ち、末梢神経系とその働きを学ぶ。
9	第5章 感覚器系	視覚、聴覚、平衡感、味覚、嗅覚、皮膚覚器を学ぶ。
10	第6章 血液・循環器系	血液のあらし、血液循環の仕組みを学ぶ。
11	第6章 血液・循環器系	血液の循環経路、心臓と血管の働きを学ぶ。
12	第6章 血液・循環器系	心臓と血管の働き、リンパ管系の働きを学ぶ。
13	第7章 呼吸器系	呼吸器系のあらし、気道、肺の仕組みとガス交換、呼吸運動について学ぶ。
14	定期試験・振り返り	前回までに学んだ範囲について定期試験を行う。試験後振り返りを実施。
15	定期試験・フィードバック	前期期末試験、解答解説、誤文訂正をし自分の苦手な項目を克服する。

科目名 (英)	美容技術理論 I Hygiene	年次	1	実務経験	担当	鈴木由美子
		授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	水・2限、金・1、2限
講師紹介	美容師免許・美容技術理論教員資格有・コスメコンシェルジュ・化粧品成分検定上級スペシャリスト・日本ウェディングスタイリスト協会(JWSA)認定講師 長きにわたり美容業界に携わる講師が、現場での実体験を交えながら理論をわかりやすく講義する。					
目的 科目概要	国家試験科目・美容全般にかかわる技術の理論、取り扱い器具、薬剤知識を学ぶ。					
到達目標	実際に学ぶ実技授業の理論・知識を習得する					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容技術理論 I・美容技術理論 II・POINTBOOK			事前事後 学習と その内容	毎回、授業後に語群の問題(番号指定)の宿題あり。(数問)	
教材	適宜配布					
特記事項	筆記用具(色ペン・マーカー含む)を用意する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 序章 美容技術理論をまなぶにあたって(P4～13)	技術を学ぶにあたって必要な人体の名称や姿勢等を理解する。
2	第1章 美容用具(P14～33)	技術で使用する用具等を覚える。
3	第2章 シャンプーイング(P34～48)	シャンプーの目的・種類・成分等
4	第2章 シャンプーイング(P49～63)	リンス・コンディショナー・トリートメントの種類等・スカルトリートメント・ヘッドスパ
5	第4章 ヘアカット(P86～103)	美容刃物・姿勢・ブロッキング・カットの基礎理論
6	第4章 ヘアカット(P104～124)	ベーシックなカット技法・シザーズ、レザーによるカット技法
7	中間試験	試験範囲(序章・第1章・2章・4章)、試験終了後振り返りを実施。
8	第5章 パーマネントウェービング(P126～137)	パーマの歴史・理論・種類
9	第5章 パーマネントウェービング	パーマ剤に関する注意事項・技術・バリエーション・縮毛矯正
10	第7章 カラーリング(P220～232)	カラーリングの理論・種類・メカニズム・色の基本・毛髪のレベルとアンダートーン
11	第7章 カラーリング(P233～243)	パッチテスト・道具、技術手順
12	第10章 メイクアップ(P72～88) 美容技術理論 II	メイクアップの基礎知識・色彩・道具・スキンケア
13	第10章 メイクアップ(P88～103) 美容技術理論 II	ベースメイク・アイメイク・アイブロウ・リップ・ブラッシュオン・まつエク
14	定期試験	今間までの振り返り・授業試験範囲(第5章・第7章・第10章)
15	定期試験・振り返り	試験終了後振り返りを実施。

科目名 (英)	美容実習 I アシスタントテクニク Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	井上秀浩 杉本萌 榎本美咲 一木亮太
		授業形態	実習			
学科・コース	美容師科	時間数	120	有	開講区分	前期
		単位	4		曜日・時間	水、木、金・1～4限
講師紹介	美容師として渋谷、表参道等を拠点とし様々なヘア雑誌の撮影やTV出演、海外での講師活動等、現在も美容師の可能性を追求する講師が授業を行う。 また近年では、後世の育成に力を注ぐ。					
目的 科目概要	サロンワークでの実践的な技術や動き等知る事が出来る。また、アシスタントとしての意識と仕事の確立をする事が出来る。					
到達目標	アシスタントとしての基本技術をシャンプーを軸に様々な技術を習得が出来、接客業の基本的な意識やマナーを身に付ける事が出来る。美容という仕事への不安を解消し自信を持って挑む事が出来る。美容業の楽しさや難しさ今の美容業界の今までと現状を知る事によりモチベーションを上げる事が出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 作品					
教科書	美容技術理論 1 美容実習1		事前事後 学習と その内容	まずはマニュアルによる手の動き方をしっかり覚え、どのように動かしていくかを習慣にする。		
教材	適宜紹介する(動画、静止画等)					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	授業目標の確認、器具等取扱いの説明	接客について、清掃の大切さを知る事が出来る。コミュニケーション、接客について(挨拶や身だしなみ、表情を考える)今のサロンの状況知る事が出来る、清掃の大切さ、マッサージを習得出来る、器具などの取扱も覚えられる様になれる。
2	プレーンリンス、1シャンプーの施術(展示、実践)	プレーンリンスの手順を理解し施術が出来る様になれる。1シャンプーの手順を理解し施術が出来る様になれる。コーミング、タオルターバン施術の仕方と理由を理解することが出来る。
3	カラーの基礎知識、カラー剤の塗布の相違	カラーの基礎となる。道具、種類やタイプ別、メカニズム、等理解する事が出来る。(注意事項を確認し事故起こらない状況を作る事が出来る)1タッチ、2タッチ、3タッチの違いを理解出来る。
4	1タッチ、2タッチの塗布の仕方	ウィッグを用いて1タッチ、2タッチの施術内容の理解と塗布の仕方を理解して出来る様になれる。(ブリーチ)
5	お客様として1シャンプーの実践ドライの仕方の展示	お客様を想定して、声かけ、プレーンリンス、1シャンプー、コーミング、タオルターバン、一連の動作をスムーズに施術出来る様になれる。ドライの基本的な考え方や施術の仕方を理解を深める。
6	2タッチの塗布(根元ぼかし)	ウィッグを用いて2タッチの施術内容の理解と塗布の仕方の理解をして出来る様になれる。(ブリーチ)
7	定期試験(プレーンリンス、1シャンプー、ドライ)	お客様としての意識でのプレーンリンス、1シャンプーを25分、ドライを30分で施術することが出来る。
8	(A)サイド、シャンプーブロー(B)バック、プレーンリンス展示	A,Bグループ編成し A,1シャンプー、ドライ、ブロー、ご案内の仕方、B,プレーンリンスを習得出来る、基本的なブローの知識と施術が理解出来る。
9	(B)サイド、シャンプーブロー(A)バック、プレーンリンス展示	A,Bグループ編成し B,1シャンプー、ドライ、ブロー、ご案内の仕方、A,プレーンリンスを習得出来る、基本的なブローの知識と施術が理解出来る。
10	ホイルワーク①(スライシング)、ホイルワーク②(ウィーピング)	ウィッグを用いてホイルワークの効果や塗布の仕方等を理解して施術が出来る様になれる。
11	ホイルワーク③(バレイヤージュ) カラー剤の相違(彩度と彩度)	ウィッグを用いてバレイヤージュの効果や塗布の仕方等を理解して施術が出来る様になれる、異なる彩度持つカラー剤を塗布し彩度、明度の違い等の理解を深める事が出来る
12	(A)サイド、技術の精度を上げる(B)バック 1シャンプー展示	A,B編成し A,1それぞれの技術のレベルを上げる、B,1シャンプーを習得出来る
13	(B)サイド、技術の精度を上げる(A)バック 1シャンプー展示	A,B編成し B,1それぞれの技術のレベルを上げる、A,1シャンプーを習得出来る
14	デザイン ① ②	デザインシートにイメージを書き込み使用する薬剤の選定していき創造力を養う事が出来る。デザインシートを元実際にカラーリングをほどこしイメージとあっているかの修正をする。
15	定期試験(カラーリング)	これまでのカラー授業の技術を用いてデザインをしてカラーリングをする

科目名 (英)	美容実習 I カット Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	鈴木由美子 蔭割実美 榎本美咲
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科・コース	美容師科	単位	2	有	開講区分	前期
					曜日・時間	月・1～4限、金・3、4限
講師紹介	長きにわたり美容業界に携わる講師が、現場での実体験を交えながら、カットとブローの基礎をわかりやすく個々に合わせた指導を行う。					
目的 科目概要	ヘアカットのとブローの基礎理論・毛髪の特徴・骨格などを理解し、基礎スタイルを学ぶ。					
到達目標	カットとブローの基礎理論を理解し、基礎スタイルを仕上げるができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	美容技術理論 I・美容実習 I		事前事後 学習と その内容	カットとブローの基礎となります。出来なかったことを、そのままにしないようにしてください。上手くいかなかったことは、繰り返し練習していきます。		
教材	適宜紹介する					
特記事項	展示のみ動画を許可する。プリントに記入等があるので、毎回筆記用具を持参してください。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション(用具の説明) 前期の授業の流れの説明	用具の確認・説明。カットとブローの専門用語の説明・基礎スタイルの説明。
2	カットとブローの用具の使い方・実践	シザーの持ち方・コムワーク・ブロッキング・スライスの取り方の実践。ハンドブローの実践
3	ワンレングスカット&ブロー(ウィッグ①)	姿勢・目線を意識して真っすぐカットする。ハンドブローの実践・ハーフラウンドブラシの使い方
4	ワンレングスカット&ブロー(ウィッグ①)	全頭カットブローの実践。艶のあるブローの実践。
5	ワンレングスカット&ブロー(ウィッグ②)	全頭カットブローの実践。艶のあるブローの実践。
6	ワンレングスカット&ブロー(ウィッグ②)	全頭カットブローの実践。艶のあるブローの実践。
7	中間試験(ワンレングスカット&ブロー)ウィッグ③	採点項目は別紙参照
8	45度平行グラデーションカット&ブロー(ウィッグ①)	ワンレングスカットのアウトラインに45度平行グラデーションを入れる。(縦スライス) ロールブラシでブロー。
9	45度平行グラデーションカット&ブロー(ウィッグ②)	ワンレングスカットのアウトラインに45度平行グラデーションを入れる。(縦スライス) ロールブラシでブロー。
10	前下がりグラデーションボブ&ブロー(ウィッグ①)	前下がりボブベースに前下がりのグラデーションを入れる。(斜めスライス) ロールブラシとハーフラウンドブラシでブロー。
11	前下がりグラデーションボブ&ブロー(ウィッグ①) セニングに使い方	前下がりボブベースに前下がりのグラデーションを入れる。(斜めスライス) セニングを入れる。(グラデーション) ロールブラシとハーフラウンドブラシでブロー。
12	前下がりグラデーションボブ&ブロー(ウィッグ②)	前下がりボブベースに前下がりのグラデーションを入れる。(斜めスライス) ロールブラシとハーフラウンドブラシでブロー。
13	ショートグラデーション&ブロー(ウィッグ①)	ショートグラデーション(サイド平行)をカットする。 ロールブラシとハーフラウンドブラシでブロー。
14	ショートグラデーション&ブロー(ウィッグ②)	ショートグラデーション(サイド平行)をカットする。 ロールブラシとハーフラウンドブラシでブロー。
15	定期試験(ショートグラデーション&ブロー)ウィッグ③	採点項目は別紙参照

科目名 (英)	美容実習 I ワインディング Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	竹内有美 宮城裕美 小坏亜矢子 足立祐季 杉本萌 榎本美咲 南本和幸
		授業形態	実習			
		時間数	120	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	4		曜日・時間	水・1～4限、木・1～4限
講師紹介	美容師経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶことの苦手意識が克服出来るように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:パーマをかけるための技術・習得できる 概要:細かい作業の繰り返しになるため、基本を大切に					
到達目標	全頭のタイムを計って巻くことで用具の使い方や作業姿勢を模倣する					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I	事前事後 学習と その内容	上巻き・下巻きの復習をし、指を慣らしておくとい			
教材	WD用具一式					
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	用具の使い方・セッティングについて	セッティング7分 ブロッキングの取り方 上巻き・下巻き ウィッグの洗い方
2	国家試験スタイルについて	巻き方の復習 ブロッキング ステムの角度
3	国家試験スタイルセンター	センターを巻く 巻き方の確認
4	国家試験スタイルセンター	巻き方の確認 1本1分でタイムを計る
5	国家試験スタイルセンター	ブロッキング3分 センター15分でタイムを計る
6	中間試験について	ブロッキング3分 センター15分でタイムを計る 巻き方の確認
7	中間試験	ブロッキング3分 センター15分でタイムを計る 巻き方の確認
8	国家試験スタイル	フロント～サイドのスライス線導入
9	国家試験スタイル	センターを10分でタイムを計る 全頭仕上げる
10	国家試験スタイル	センター10分 右側14分 左側12分 全頭40分でタイムを計る
11	国家試験スタイル	1分で2本巻く ブロックごと全頭のタイムを計る
12	国家試験スタイル	20分で右側12mm②残り20分で全頭仕上げる 全頭40分でタイムを計る
13	定期試験について	全頭40分 作品の確認
14	定期試験	全頭40分 作品の確認 次回の持ち物について
15	パーマをかける	オールウェーブのウィッグにパーマをかける

科目名 (英)	メイクアップ Make up	年次	1	実務経験	担当	足立祐季 杉本萌 榎本美咲
		授業形態	演習			
		時間数	60			
学科・コース	美容師科	単位	2	有	開講区分	前期
講師紹介	化粧品メーカーのイベント等や広告媒体の第一線で活躍している現役ヘアメイクアップアーティストが基礎マナーを初めとする道具の使い方、メンテナンス方法、ベーシックメイクスキルを教える。					
目的 科目概要	メイク製品の知識、道具の使い方、基礎となるプロセスを学び、美容室、ヘアメイク、マツエクサロン等で必須となる基本技術や知識を身につける					
到達目標	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に25分以内にモデルの骨格に合ったフルメイクを美しく仕上げる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	毎授業持参する		事前事後 学習と その内容	専門用語、実技スキルが必要となる為実習後は授業内のメモ等を活用し技術の復習を行い、専門用語は必ず覚える事。		
教材	メイク道具一式、鏡、消耗品一式、汚物入れ、消毒用品、名札、筆記用具					
特記事項	肌が弱く教材が使用できない場合事前に報告をする					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	メイクアップツール、テーブルセッティング、メンテナンス方法を学ぶ	ブラシ、アイテム等の名称、役割、メンテナンス方法を学び、作業時の身だしを学習する
2	スキンケア、ベースメイク	美しいベースメイクに必要な下地、ファンデーションの塗布の仕方、コンシーラーを使ったトラブルカバーを覚える。
3	チーク、ハイライト、ローライト	顔の立体を理解し、血色づくりや凹凸感を出すのに必要なテクニックを覚える
4	アイシャドウ	目の形にあったシャドウの入れ方、美しいグラデーションの作り方、色の選択方法を覚える
5	アイライナー、アイラッシュ	ガツキのない美しいラインの描き方、美しいカールを作るプロセスを覚える。角度に対しての印象の変え方、違いを覚える
6	アイブロウ、リップ	アイブロウの毛の生え方を理解し、美しく描く、唇の輪郭に合わせて美しくルージュを引く
7	中間試験40分フルメイク	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に40分以内でモデルの骨格にあったフルメイクを美しく仕上げる
8	クレンジング	適切なクレンジングを覚え、スキンケア効果を高めるプロセスを学習する
9	ベースメイク強化	ベースメイクの仕上がりの完成度を上げる、コンシーラーワークの強化、コントロールカラーの強化
10	アイブロウ強化	左右対象によりグラデーションを強化しアイブロウの仕上がりを強化する
11	キュートメイク	キュートなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロウ、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する
12	クールメイク	クールなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロウ、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する
13	エレガントメイク	エレガントなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロウ、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する
14	タイムアップ練習	定期試験に向けてタイムアタックを行い、その中で道具の使い方や仕上がりの美しさにも気をつける習慣をつける
15	定期試験 骨格に合ったフルメイクを25分	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に25分以内でモデルの骨格にあったフルメイクを美しく仕上げる

科目名 (英)	美容総合技術 I Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	塚本博美 若井りさ 岩本理絵 我妻優子 福田美幸
		授業形態	演習			
学科・コース	美容師科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	2		曜日・時間	月・2~4限・火・1, 2限
講師紹介	【塚本】おもてなし:企業研修マネージャー・産業カウンセラー・サービス接客インストラクター・おもてなしマスター講師が就職現場に基づいた「おもてなし」が出来るよう細かく指導します。顧客満足を考え、日頃の何気ない立ち居振る舞いや笑顔、癖なども注意を促してして行きます。 【若井】トータルデザイン:スタイリストとして各雑誌や広告、ディスプレイ、また企業のアパレルグッズの企画デザインなど多岐にわたる実務経験を活かし講義する。					
目的 科目概要	【塚本】目的:おもてなしマスター検定合格 概要:職場の人間関係に於いて必要なコミュニケーション技術を身に付け、おもてなし検定習得を目指します。 【若井】ファッションイラストレーションの描き方やヘアデザインについて創造的な技術を学ぶ。その経験の中での技術が実務で必要不可欠となるデザイン力のポイントと提出するプレゼン書類の表現ポイントを習得する。					
到達目標	【塚本】おもてなしマスター検定資格試験に合格する。合格の為に必要な「おもてなしの心」「おもてなし型」「スキル」を身に付け、実践することが出来る。今まで知らなかった接客敬語をマスターし使えるようになる(小テスト) 【若井】コンテストで発表する作品のデザイン由来と作業工程を一見で理解していただけるプレゼンテーション素材の完成					
評価方法	出席率/中間試験と定期試験/授業態度/好感度(常に笑顔が出るか)/模擬試験の出来栄(過去問題)/おもてなし検定の可否 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート □ 作品					
教科書						
教材	プリント(補助教材)	事前事後 学習と その内容				
特記事項	月曜日:おもてなし授業 火曜日:トータルデザイン					

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	月:おもてなし検定について 火:業界研修	月:オリエンテーション。授業の受け方のルール。自己紹介。「おもてなし」とは何かを知る。 火:業界研究
2	月:ニコニコトレーニングとおもてなし体験について 火:業界研修	月:「ニコニコトレーニング」の実践。笑顔の重要性。「好感度の高い笑顔」を身に付ける。グループワーク「おもてなし体験」を話しあい、発表。 火:業界研修
3	月:おもてなしの「心」について 火:トータルデザイン1組	月:おもてなしマスター資格試験に就いてのレクチャー。おもてなしの定義に就いて理解する。おもてなしの心について理解する。 火:イメージの建て方と誌面への割付けの方法
4	月:おもてなしの「5つの型」について 火:トータルデザイン2組	月:おもてなしの5つの型を知る。グループワーク「聞く」と「聴く」の違い。アクティブリスニングを体得する。ロールプレイング。 火:イメージの建て方と誌面への割付けの方法
5	月:傾聴トレーニングの実践 火:トータルデザイン3組	月:リフレクティングの仕方を身に付ける(相槌)。うなずきの仕方を身に付ける。感情の受容の仕方を身に付ける。 火:イメージの建て方と誌面への割付けの方法
6	月:おもてなしにおける時間管理について 火:トータルデザイン1組	月:お客様をもちやすにたつて、余裕を持って準備することの大切さを理解する。お客様の立場・感情を踏まえた速い対応の大切さを理解する。お客様の立場・感情を踏まえた時間の長さを意識する。 火:全身像を描く→iPadの利用法①
7	月:中間テスト実施 火:トータルデザイン2組	月:授業の振り返り、中間テスト(小論文あり) 火:全身像を描く→iPadの利用法①
8	月:環境設定について	月:お客様に快適と安心を与える空間とはどんな空間でどんな要素が必要なのかを知る。事前調査により得たお客様の属性や個性を反映させた環境作りを考えることが出来る。五感を磨くトレーニング。
9	月:場面演出について 火:トータルデザイン3組	月:感動を与えるような場面演出について理解する。おもてなしの意図を正しく伝える為のプレゼンテーションスキルを理解する。 火:全身像を描く→iPadの利用法①
10	月:イベント演出について 火:業界研修	月:場面演出・イベント演出スキルを理解する。変化に対応出来る力を身に付ける事の大切さを理解する。即断即決の柔軟な対応でお客様を不快にさせないアサーティブな自己表現を身に付ける。 火:業界研修
11	月:予想外の変化について 火:業界研修	月:変化対応におけるポジティブシンキング・ストレスマネジメントの必要性を理解する。ポジティブシンキングの本質や自己のストレス傾向を知り、自分自身の人生を有意義に過ごせるような考え方を身に付ける。 火:業界研修
12	月:なぜなぜシンキングについて 火:トータルデザイン1組	月:おもてなしの5つの型を身に付ける為に有意義な共通スキルについて理解する。顧客の意中を射抜き、意表をつくおもてなしをするために身に付けて欲しいスキルを演習を通じて実践する。 火:自分のイメージをわかりやすく表現する
13	月:共通スキルについて 火:トータルデザイン2組	月:自分自身の心の状態や傾向を把握する。お客様を理解する手掛かりの1つとしてエゴグラム活用法を習得する。 火:自分のイメージをわかりやすく表現する
14	月:コーチングについて 火:トータルデザイン3組	月:お客様を目的地まで送り届けるためのコーチングスキルを活用できるようにする。模擬テスト(過去問題)をやって試験対策をする。 火:自分のイメージをわかりやすく表現する
15	月:おもてなし検定の実施 火:業界研修	月:「おもてなし検定」受験 火:業界研修

科目名 (英)	就職講座Ⅱ Career Development	年次	1	実務経験	担当	岩本理絵・我妻優子・福田美幸
		授業形態	演習			
		時間数	30			
学科・コース	美容師科	単位	1	有	開講区分	後期
					曜日・時間	火・3限(1~3組)
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	美容の仕事で、どのような知識・技術・接客が必要であるかを知る。また業界ではどのような人材が必要とされるかを知る。					
到達目標	美容の仕事を深く理解し、どのような知識・技術が必要で、業界はどのような人物が必要とされているか理解する。 希望職種内定のために、必要な就職マナーが備わっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style		事前事後 学習と その内容	積極的に参加し、人前で発表することの経験を積み重ね、みんなの前で自己PRが発表できるようになりましょう。		
教材	手帳・ポートフォリオ					
特記事項	必要なことはメモをとる					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	就職スケジュール・履歴書・面接対策	就職スケジュールを把握し、履歴書の重要性を理解する。 また面接試験のマナーを学び、自己紹介が出来るようになる。
2	就職スケジュール・履歴書・面接対策	就職スケジュールを把握し、履歴書の重要性を理解する。 また面接試験のマナーを学び、自己紹介が出来るようになる。
3	就職スケジュール・履歴書・面接対策(業界来校)	就職スケジュールを把握し、履歴書の重要性を理解する。 また面接試験のマナーを学び、自己紹介が出来るようになる。
4	就職スケジュール・履歴書・面接対策(業界来校)	就職スケジュールを把握し、履歴書の重要性を理解する。 また面接試験のマナーを学び、自己紹介が出来るようになる。
5	業界研究	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
6	業界研究	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
7	中間試験	面接対策で今後自分に何が必要かを理解する。
8	面接対策	面接対策で今後自分に何が必要かを理解する。
9	面接ロールプレイ(業界の人事の方来校)	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
10	面接ロールプレイ	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
11	面接ロールプレイ	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
12	面接ロールプレイ(業界の方来校)	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
13	面接先や説明会会場での所作	面接先や説明会会場での所作を学び、印象の良い対応が出来るようになる。
14	面接ロールプレイ(業界の方来校)	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
15	定期試験	履歴書の完成を通して、就職活動の準備を整える。

科目名 (英)	保健Ⅱ Health	年次	1年	実務経験	担当	駒木伸一郎
		授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	後期
		単位	1		曜日・時間	月・2～4限
講師紹介	医学博士の資格を持ち、医科大学・医療専門学校・病院などで研究・教育・臨床業務を行ってきた講師が保健科目をわかりやすく講義する。					
目的 科目概要	美容師は頭や顔を中心とする人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業であり、特に頭頸部の構造や機能について深い知識を持つことが必要である。そのような知識の基礎となる保健学を学ぶ。					
到達目標	人体の構造及び機能、皮膚科学について理解する。美容師国家試験に合格できるような保健の知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数に8割満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験					
教科書	日本理美容教育センター発行「保健」		事 前 事 後 学 習 と そ の 内 容	事前学習として教科書に目を通しておく。事後学習として配布した練習問題を繰り返し解き、知識の記憶に努める。		
教材	教科書及び配布プリント、解剖模型など					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間期末試験時は学生証持参。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	人体の構造及び機能 第8章 消化器系	消化器系のあらまし、消化管の仕組み、消化管の働き、消化と物質代謝について学ぶ。
2	皮膚科学 第1章 皮膚の構造	皮膚の表面・断面、表皮・真皮・皮下組織について学ぶ。
3	皮膚科学 第1章 皮膚の構造	皮膚の表面・断面、表皮・真皮・皮下組織について学ぶ。
4	皮膚科学 第2章 皮膚付属器官の構造	毛、脂腺、汗腺、爪について学ぶ。
5	皮膚科学 第2章 皮膚付属器官の構造 第3章 皮膚の循環器系と神経系	毛、脂腺、汗腺、爪、皮膚の血管・リンパ管・神経について学ぶ。
6	皮膚科学 第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	対外保護作用、体温調節作用、知覚作用と皮膚反射、分泌排泄作用、呼吸作用について学ぶ。
7	後期中間試験	前回までに学んだ範囲について中間試験を行う。
8	皮膚科学 第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	吸収作用、貯蔵作用、免疫・解毒・排除作用、再生作用、毛・爪の働きについて学ぶ。
9	皮膚科学 第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚と全身状態、皮膚と精神、皮膚と栄養、皮膚と嗜好品、皮膚と体内病変、皮膚の水分と脂の状態を学ぶ。
10	皮膚科学 第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚・付属器官とホルモン、皮膚の保護と手入れ、毛・爪の保護と手入れ、子どもの皮膚トラブルについて学ぶ。
11	皮膚科学 第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚の異常とその種類、皮膚疾患の原因、皮膚疾患の治療法、皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹、口唇の疾患、温熱・寒冷による皮膚障害について学ぶ。
12	皮膚科学 第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	角化異常による皮膚疾患、色素異常による皮膚疾患、血管腫、脂腺母斑、下肢静脈瘤、分泌異常による皮膚疾患、化膿菌による皮膚疾患を学ぶ。
13	皮膚科学 第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	ウイルス・真菌による皮膚疾患、衛生害虫による皮膚疾患、感染症の皮膚疾患の予防、毛と爪の疾患、皮膚の腫瘍を学ぶ。
14	後期期末試験	前回までに学んだ範囲について後期期末試験を行う。
15	後期期末試験フィードバック	後期期末試験について解答解説、誤文訂正をし苦手分野を克服し理解を深める。

科目名 (英)	衛生管理 I Hygiene management	年次	1	実務経験	担当	渡邊 隆
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1		曜日・時間	月・2～4限
講師紹介	薬剤師として調剤薬局や老人施設などの現場で最新の情報を常に得られる環境にて仕事をしています。また薬系の大学や専門学校で講師を務めています。教科書の内容だけでなく最新の情報を授業に生かしていくことを心がけています。					
目的 科目概要	美容師国家試験の科目で衛生管理学は「公衆衛生・環境衛生」「感染症」「衛生管理技術(消毒法)」の三科目に分かれており各々5問ずつ出題されます。国家試験全55問のうちの15問を締めるこの教科において最終の目的は国家試験合格と足切りの回避です。ただし、この科目が美容師になった時、また日々の暮らしの中で役立っていくような知識作りをします。					
到達目標	国家試験での合格ですが、それを通過点として美容師法第1条「美容師は美容師の業務が適正に行われることで公衆衛生の向上に資すること」に忠実に実行できる美容師になるための知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	センターからの配本		事前事後 学習と その内容	毎週前回の内容について小テストを行うので予習より復習		
教材	都度					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	この科目がなぜ必要かまた授業の進め方について説明する
2	公衆衛生の概要と歴史	公衆衛生とはどういうものでありまたそのなかでの歴史上の人物について学ぶ
3	美容師と公衆衛生、保健所について	美容師がどのように公衆衛生に係りやその最前線にある保健所の業務や素子について学ぶ
4	母子保健、成人保健 その1	子供や母親についての統計学的数字や生活習慣病などの成人についての保健を学ぶ
5	成人保健 その2	生活習慣病について具体的な例や統計学的数字を学ぶ
6	老人保健と福祉精神保健	高齢化社会における保険制度や心の病についての問題点などを学ぶ
7	中間試験	公衆衛生全範囲
8	環境衛生の目的と意義、空気と健康	環境衛生とはどういうもので、その中の空地の役割について学ぶ
9	温度、湿度、気流と健康	温度や湿度、気流と我々の関わりについて学ぶ
10	衣服と住居の衛生	衣服の意義や役割、窓や照明、冷暖房などの役割を学ぶ。
11	上下水道と廃棄物	上下水道の供給、ゴミやし尿の処理について学ぶ
12	衛生害虫とネズミ 環境保全	衛生害虫やネズミの影響や美容師が環境の破壊を起こさないようにする為の環境保全について学ぶ
13	第5篇 美容所における衛生管理要領	美容師法よりもより詳しい美容所の管理運営についての管理要領について学ぶ
14	定期試験	ペーパー試験 振り返り
15	期末試験の解説	試験の解説をおこない知識の再確認する

科目名 (英)	美容技術理論Ⅱ Beauty technological theory	年次	1	実務経験	担当	南本和幸
		授業形態	講義			
		時間数	30	講義	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1		曜日・時間	月・1限
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための知識・心得を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
到達目標	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容技術理論1・2		事前事後 学習と その内容	授業の後復習をし、実技では理論を思い出しながら臨んでほしい。		
教材						
特記事項	ノート・筆記用具(ペン・マーカーを含む)を用意する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	前期の復習	○×問題、語群問題など
2	第8章 エステティック	教科書2(P4～18)
3	第8章 エステティック	教科書2(P18～35)
4	第9章 ネイル技術	教科書2(P36～46)
5	第9章 ネイル技術	教科書2(P46～71)
6	過去問	過去問 解説
7	中間試験	
8	第11章 日本髪	教科書2(P112～123)
9	第11章 日本髪	教科書2(P124～133)
10	第12章 着付けの理論と技術	教科書2(P134～151)
11	第12章 着付けの理論と技術	教科書2(P152～181)
12	今までの復習	過去問 グループワーク
13	今までの復習	過去問 グループワーク
14	今までの復習	過去問
15	定期試験	

科目名 (英)	美容実習Ⅱアシスタント技術 Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	井上秀浩
		授業形態	実習			
学科・コース	美容師科	時間数	60	有	開講区分	後期
		単位	2		曜日・時間	水・3, 4限、金・1～4限
講師紹介	美容師として渋谷、表参道等を拠点とし様々なヘア雑誌の撮影やTV出演、海外での講師活動等、現在も美容師の可能性を追求する講師が授業を行う。 また近年では、後世の育成に力を注ぐ。					
目的 科目概要	技術と知識の向上を意識し、よりサロンワークなどに用いられる技術の習得ができ、社会人としてのマナーや意識も持つ事が出来る。					
到達目標	アシスタントとしての美容に関する知識を深め、よりレベルアップした接客業の意識やマナーを身につけることが出来、基本技術の向上をする事で実在するサロンを想定した、実践的な動き等を習得する事により求められる人材になることが出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書	美容技術理論 1 美容実習 1		事前事後 学習と その内容			
教材	適宜紹介する(動画、静止画等)					
特記事項						
まずはマニュアルによる手の動き方をしっかり覚え、どのように動かしていくかを習慣にする。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	2シャンプーの理解と施術が出来る	1シャンプーの一連の動作を理解し、(サイド、バック共に)2シャンプーの手順を理解して、施術できる。引き続きブローまでの施術でクオリティを上げ様々な髪質にも対応できる技術を身につける事が出来る。
2	2シャンプーの施術の理解が出来る	1シャンプーの一連の動作を理解し、(サイド、バック共に)3シャンプーの手順を理解して、施術できる。引き続きブローまでの施術でクオリティを上げ様々な髪質にも対応できる技術を身につける事が出来る。
3	2シャンプーの理解と施術を深める (アイロン操作)	シャンプーの一連の動作を理解し、(サイド、バック共通)なおかつ2シャンプーの手順を理解して、施術できる。基本的なアイロン操作を理解し施術が出来る。
4	2シャンプーの理解と施術を深める (アイロン操作)	シャンプーの一連の動作を理解し、(サイド、バック共通)なおかつ2シャンプーの手順を理解して、施術できる。基本的なアイロン操作を理解し施術が出来る。
5	2シャンプーの施術の理解を深める(時間の意識)	2シャンプーの手順を理解しより細かい所まで行き届く事が出来き時間を意識しながら、施術しサロンワークに適した技術を身につけることが出来る。
6	2シャンプーの施術の理解を深める(時間の意識)	2シャンプーの手順を理解しより細かい所まで行き届く事が出来き時間を意識しながら、施術しサロンワークに適した技術を身につけることが出来る。
7	中間試験 2シャンプー20分、ブロー30分	(バックシャン、サイドシャン共通) 2シャンプーの手順の理解度、ブロー&スタイリングの理解度の確認
8	アシスタントの動き① (アイロン操作2人体制)	(バックシャン、サイドシャン共通) 2シャンプーの施術後2人体制でのブロー時の動き方の理解、様々な技法のアイロン操作の理解をしスタイルの作成の幅を持てる様になれる。
9	アシスタントの動き② (ワインディングのヘルプの仕方)	(バックシャン、サイドシャン共通)2シャンプー施術後ワインディング時の意識、動き方を理解でき、アシスタントとしての働きを習得する。
10	ヘッドマッサージ	(バックシャン、サイドシャン共通)2シャンプー後実践的ヘッドスパを理解し習得する事が出来る。
11	サロンワーク(店舗を考える)	今の現状の各サロンの状況等を調べて意識の改革や共通意識、就職への準備事項の確認などディスカッションをしてモチベーションの向上を図る。
12	サロンワーク(役割分担を考える)A	スタイリスト、アシスタントのバランスや動き方、お客様の動線を考えてプレオープンし改善点等を話しサロンワークに対する理解度を深める事が出来る。
13	サロンワーク(役割分担を考える)B	スタイリスト、アシスタントのバランスや動き方、お客様の動線を考えてプレオープンし改善点等を話しサロンワークに対する理解度を深める事が出来る。
14	定期試験(2シャンプー、ヘッドスパ、ブロー、スタイリング)A	お客様としての意識でサロンワークの中での自分の役割を状況下で判断して動く事が出来る。
15	定期試験(2シャンプー、ヘッドスパ、ブロー、スタイリング)B	お客様としての意識でサロンワークの中での自分の役割を状況下で判断して動く事が出来る。

科目名 (英)	美容実習Ⅱカット Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	鈴木由美子
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科・コース	美容師科	単位	2	有	開講区分	後期
					曜日・時間	水・1～4限、金・1、2限
講師紹介	長きにわたり美容業界に携わる講師が、現場での実体験を交えながら、カットとブローの基礎をわかりやすく個々に合わせた指導を行う。					
目的 科目概要	ヘアカットのとブローの基礎理論・毛髪の特徴・骨格などを理解し、基礎スタイルを学ぶ。					
到達目標	カットとブローの基礎理論を理解し、基礎スタイルを仕上げるができる。基礎スタイルが、自分のイメージしている仕上がりになること。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	美容技術理論Ⅰ・美容実習Ⅰ		事前事後 学習と その内容	カットとブローの基礎となります。出来なかったことを、そのままにしないようにしてください。上手くいかなかったことは、繰り返し練習していきましょう。		
教材	適宜紹介する					
特記事項	展示のみ動画を許可する。プリントに記入等があるので、毎回筆記用具を持参してください。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	セიმレングスカット(ショート)&ブロースタイリング(ウィッグ①)	全体の長さを同じぐらいの長さにする。スタイリング剤を使って仕上げる。
2	セიმレングスカット(ショート)&ブロースタイリング(ウィッグ②)	全体の長さを同じぐらいの長さにする。スタイリング剤を使って仕上げる。
3	セिमレングスカット(ショート)&ブロースタイリング(ウィッグ③)	全体の長さを同じぐらいの長さにする。スタイリング剤を使って仕上げる。
4	刈り上げスタイル&ブロースタイリング(ウィッグ①)	ショートカットにつながる刈り上げ。スタイリング剤を使って仕上げる。
5	刈り上げスタイル&ブロースタイリング(ウィッグ②)	ショートカットにつながる刈り上げ。スタイリング剤を使って仕上げる。
6	刈り上げ(2ブロック)&ブロースタイリング(ウィッグ①)	ブロックに分けて刈り上げ。スタイリング剤を使って仕上げる。
7	中間試験 刈り上げ(2ブロック)&ブロースタイリング(ウィッグ②)	ブロックに分けて刈り上げ。スタイリング剤を使って仕上げる。
8	ショートスタイル(セニング・スライド)スタイリング(ウィッグ③)	毛量調節、顔周りのニュアンス、ポインティングカットの実践。スタイリング剤を使って仕上げる。
9	ミディアムスタイル(ローレイヤー)&ブロースタイリング(ウィッグ④)	ワンレングスペースにローレイヤーを入れる。ロールでブロー。内巻き
10	ミディアムスタイル(ローレイヤー)&ブロースタイリング(ウィッグ④)	ワンレングスペースにローレイヤーを入れる。ロールでブロー。内巻き
11	ミディアムスタイル(ローレイヤー)&ブロースタイリング(ウィッグ⑤)	ワンレングスペースにローレイヤーを入れる。ロールでブロー。外巻き
12	ミディアムスタイル(ローレイヤー)&ブロースタイリング(ウィッグ⑤)	ワンレングスペースにローレイヤーを入れる。ロールでブロー。外巻き
13	ミディアムスタイル(レイヤー)&ブロースタイリング(ウィッグ④)	前上がりベースにレイヤーを入れる。ロールでブロー。内巻き
14	ミディアムスタイル(レイヤー)&ブロースタイリング(ウィッグ⑤)	前上がりベースにレイヤーを入れる。ロールでブロー。外巻き
15	定期試験(フリースタイル・デザインシートあり)	今まで習ったスタイルでカット&ブロースタイリング(ウィッグ⑤)

科目名 (英)	美容実習Ⅱワインディング Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	竹内有美 小坏亜矢子 宮城裕美 蔭割実美 足立祐季
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科・コース	美容師科	単位	2	有	開講区分	後期
					曜日・時間	水・1、2限、金・1～4限
講師紹介	美容師経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶことの苦手意識が克服出来るように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:国家試験の目標タイムに近づけていく 概要:スピードアップのほか作品の確認も学んでいく					
到達目標	美容師科の国家試験に受かるための技術・知識を習得できる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ	事前事後 学習と その内容	ロッドとペーパーで巻き込みを素早くできるようにしておくとい			
教材	WD用具一式					
特記事項	同じことの繰り返しになるが目標を持ち取り組んでいく					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	前期のふりかえり	センター10分 右側14分 左側12分 全頭40分でタイムを計る
2	国家試験スタイル	全頭目標30分 センター8分 右側12分 左側10分
3	国家試験スタイル	タイムトライアル35分まで ブロックごとにタイムを計る
4	国家試験スタイル	タイムトライアル35分まで ブロックごとにタイムを計る
5	中間試験について	全頭30分 ブロックごとにタイムを計る 作品の確認
6	中間試験の流れ	全頭30分 作品の確認
7	中間試験	全頭30分 作品の確認
8	国家試験スタイル	2分で5本巻く タイムトライアル30分まで
9	国家試験スタイル	センター7分 右側10分 左側8分 全頭目標25分
10	国家試験スタイル	タイムトライアル25分まで ブロックごとにタイムを計る
11	国家試験スタイル	タイムトライアル25分まで ブロックごとにタイムを計る
12	国家試験スタイル	全頭25分 ブロックごとにタイムを計る
13	定期試験について	全頭25分 作品の確認 修正 練習
14	定期試験の流れ	全頭25分 作品の確認 修正 練習
15	定期試験	全頭25分 作品の確認

科目名 (英)	美容実I オールウェーブ・セッティング Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	竹内有美 小坏亜矢子 宮城裕美 蔭割実美
		授業形態	実習			
学科・コース	美容師科	時間数	60	有	開講区分	後期
		単位	2		曜日・時間	水・1、2限、金・1～4限
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶことの苦手意識が克服出来るように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験の基礎知識、基礎技術をまなび国家試験に合格する力をつける 概要:国家試験科目である、第2課題オールウェーブ・セッティング、衛生を学ぶ。手順や技術等を学びながら、国家試験の採点項目に沿って、技術の向上を目指す。					
到達目標	美容師国家試験に合格するための技術・知識・心構えを習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I	事前事後 学習と その内容	マニュアルや動画を参照し、多数の技法を理解、習得できるよう復習する。			
教材	マニュアル					
特記事項	マニュアルにたくさん細かい説明等を書き込む。理解できなかつた事は、その日に必ず質問し、理解できないままにしない。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	・教材について ・1段目馬蹄形を作る	・用具の説明、セッティング ・ローションのつけ方 ・コームの使い方・マニュアル配布 ・ハーフウェーブの作り方 ・馬蹄形を作る
2	・1段目馬蹄形の復習 ・1段目スカルプチュアカールを作る	・正しい馬蹄形を作る * 立ち位置、指の向きにきをつける ・スカルプチュアカールの作り方、スライス取り、ピンングを覚える(8分)
3	・スカルプチュアカールをタイムで作る ・2段目半円シェーブとリッジを作る	・スカルプチュアカール6分 ・2段目かき出し、半円シェーブ、リッジの作り方を覚える
4	・2段目リッジまでの復習	・スカルプチュアカール6分 ・馬蹄形～2段目リッジまで15分 ・正確な半円とリッジを作る
5	・中間試験について ・3段目の分け取りと3段目左右ウェーブを作る ・3段目スカルプチュアカールを作る	・中間試験採点項目を把握する ・3段目左右ウェーブを幅や分け取り方を注意して作る ・3段目スカルプチュアカール5分
6	・中間試験について ・3段目左右ウェーブとスカルプチュアカール	・2段目リッジまで15分 / 3段目左右ウェーブとスカルプチュア10分 ・馬蹄形～3段目スカルプチュアカールまで25分
7	中間試験	試験内容:3段目までの左右ウェーブと3段目スカルプチュアカール 25分 採点・評価・振り返り
8	・左右7段ウェーブ(左右4段目～7段目を作る)	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ35分(3段目スカルプチュアカール込み) ・セニングを入れる
9	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ30分(3段目スカルプチュアカール込み) ・セニングを入れる
10	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ30分(3段目スカルプチュアカール込み)
11	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・4段目リフトカールを作る	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・4段目リフトカールの作り方を覚える
12	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・4段目リフトカールを作る	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・4段目リフトカールのクオリティーアップ(5分)
13	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・3. 4段目カールのクオリティーとタイムアップ ・期末試験について	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・4段目リフトカールまで25分 ・期末試験の採点項目を把握
14	・定期試験前の強化	・期末試験の採点項目を理解し上げる ・4段目リフトカールまで25分
15	定期試験	試験内容:4段目リフトカールまで25分 採点・評価・振り返り

科目名 (英)	美容総合技術 I Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	山口妙子 井上秀浩 一木亮太 荒谷健太 足立祐季 大和田一樹 福島裕司 鈴木由美子 武田郁乃 岩本理絵 我妻優子 福田美幸 南本和幸
		授業形態	演習			
学科・コース	美容師科	時間数	180	有	開講区分	後期
		単位	6		曜日・時間	月・2～4限
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術と現場力を学ぶ。					
到達目標	常に、お客様、モデルを想定しての接客・応用技術を身に付ける					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書						事前事後 学習と その内容
教材						
特記事項	講義及び掲示物について、著作権のある資料も使うことがある為 写真撮影及び録音録画を禁止する					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	美容全般の技術を学ぶ①	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
2	美容全般の技術を学ぶ②	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
3	美容全般の技術を学ぶ③	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
4	美容全般の技術を学ぶ④	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
5	美容全般の技術を学ぶ⑤	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
6	美容全般の技術を学ぶ⑥	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
7	プレゼンテーション①	テーマに合わせた作品のプレゼンテーションを実施する
8	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロール プレイで実施する
9	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロール プレイで実施する
10	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロール プレイで実施する
11	美容全般の技術を学ぶ②	8～9回の授業振り返り、課題の克服する
12	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロール プレイで実施する
13	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロール プレイで実施する
14	美容全般の技術を学ぶ③	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロール プレイで実施する
15	美容全般の技術を学ぶ③	プロから評価をしていただく